

12月の園だよりより

自然からの贈り物

園長 女屋 旬子

12月を間近に迎え、ぐんと秋が深まり、園庭には色様々な葉っぱが舞い落ちていきます。朝、幼稚園に行くと、その色の豊かさにはっとさせられます。そして、葉っぱが園庭に積もるようになると、もう子どもたちも葉っぱの魅力に気付き始めます。たくさん葉っぱの積もっているところを選んで、サクサクと音を立てて歩いてみたり、少しすり足にして葉っぱの中に靴を潜らせながら歩いている子がいます。朝に掃き集めた葉っぱの山を見つけると、ピョンとジャンプしてその中に飛び込む子がいます。葉っぱの感触を楽しんでいます。机と紙を出すと、紙の上にきれいな葉っぱを集め始めます。「この葉っぱ、赤色と黄色と両方の色があってきれいだよ」「これ、しましまの模様になっている」「この葉っぱ、赤くて小さくてかわいいでしょ」など、集めているうちに、葉っぱをよく見て、その色やグラデーション、偶然にできた模様、大きさなどに気付き、自分でいいなと思う葉っぱを拾い集めて紙の上に、思い思いに配置します。並べたものをしっかりと平面に貼りたくて、葉っぱの上からテープで全ての面を貼り付ける方法を編み出した子もいます。職員が熊手で葉っぱをかき集めていると、ミニ熊手を持ってきて、自分たちも葉っぱを集めることを楽しみます。それ自体がもう楽しい遊びになっています。集めた葉っぱを大きいちりとりに入れて運ぶ子、何に入れたらたくさん運べるのか考えて、台車やケースを使って運ぶ子、下が網になっているケースに入れたら砂を落とせることを発見して、嬉しそうに友達にケースを振って砂を落としながら知らせる子、たくさん集まった葉っぱに寝転んだり、友達と葉っぱの掛け合いをしたりする子も、それを見て自分もやりたいと集まってくる子どもたちもいます。みんな、とても生き生きといい顔をしています。葉っぱとのか関わりの中で、自分の感覚を使って遊び、葉っぱから様々ことを感じ取り、表現し、遊びを作り出し、友達と協力したり、共感し合ったりしています。

この秋に、子どもたちは芦花公園にお散歩に行き、どんぐりやフウの実など様々な実を拾ったり、サツマイモを掘りに行きもらったツルでリースを作ったり、園庭のミカンを収穫したり、八幡山小学校の1年生と一緒に秋の自然物で飾った服や冠などを作ったりと、秋を楽しんでいます。生き物、植物、雨や水溜り、風、雪霜柱、土、自然からの贈り物は他にも数えられないくらいあります。子どもたちはそれを上手に受け取りながら、感性を育てています。

時代の変化と共に、自然からの大切な贈り物を受け取りにくくなっていると感じるが増えてきました。生活の仕方を工夫し、園での環境を工夫すると、もっともっとたくさんの贈り物を受け取ることができるかなと思います。感性が柔らかくてどんどん育っていく幼児期に、たくさんの贈り物を受け取れるように工夫していきたいと思っています。

